



議会だより

No.140

2023.1.17 発行

今号の写真
卯年生まれのみなさん

おめでとう

表紙 卯年生まれのみなさん

- 定例会：補正、主な事業…………… P2
- 定例会：議案リスト、質疑…………… P3
- 新年あいさつ、臨時会…………… P4
- 総務建設産業常任委員会審査報告… P5
- 教育民生観光常任委員会審査報告… P6
- 特集…………… P7～P9
- 一般質問 (9名)…………… P10～P18
- わたしのひとこと (2名)…………… P19

裏表紙 東飯田、南山田地区の写真

編集後記



12月
定例会

一般会計 特別会計補正予算

原案
可決

令和4年第4回定例会九重町議会が開催され、補正予算11件のほか、議案6件、諮問1件、発議2件を審議し、すべて原案のとおり可決しました。

令和4年度一般会計補正予算（第11号）

補正前予算額	86億3,823万5千円
補正額	2億9,169万9千円
補正後予算額	89億2,993万4千円

◎補正予算●主要内容

歳入

- 地方交付税…………… 3億8,680万8千円
- 特定防衛施設周辺整備調整交付金
…………… 1,868万6千円
- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金
…………… 3,800万円
- 公共土木施設災害復旧費補助金
…………… △1,638万円
- 農業次世代人材投資事業補助金
…………… △3,000万円
- まちづくり寄付金…………… 3,000万円
- 減債基金繰入金…………… △1億5,500万円
- 農林水産業施設災害復旧費…………… 6,305万円
- 臨時財政対策債…………… △5,378万8千円

歳出

- 農業次世代人材投資事業補助金
…………… △3,000万円
- 畜産経営支援飼料高騰緊急対策支援事業補助金
…………… 1,551万円
- 農林水産業施設等復旧支援事業費補助金
…………… 906万4千円
- 電気料金高騰緊急対策支援事業補助金
…………… 2,620万円
- 農地災害復旧費…………… 1億 176万円
- 道路橋りょう補助災害復旧費…………… 8,840万8千円

◎特別会計補正予算

- 国民健康保険特別会計 保険給付費確定
補正額 49万5千円 総額 15億8,870万円
- 水道特別会計 手数料追加
増減なし 総額 1億3,380万4千円
- 飯田高原診療所特別会計 繰越金確定
補正額 160万6千円 総額 6,947万6千円
- 介護保険特別会計 サービス事業費追加
補正額 29万4千円 総額 15億2,249万9千円
- 後期高齢者医療特別会計 広域連合納付金確定
補正額△159万2千円 総額 1億6,004万3千円

追加議案 補正予算5件

◎一般会計補正予算（第12号）

職員の給与改定入れ替え

補正前予算額	89億2,993万4千円
補正額	1万8千円
補正後予算額	89億2,995万2千円

◎一般会計補正予算（第13号）

商品券事業※来年度繰越

補正前予算額	89億2,995万2千円
補正額	3,325万円
補正後予算額	89億6,320万2千円

◎特別会計補正予算 職員の給与改定入れ替え

- 水道特別会計
増減なし 総額 1億3,380万4千円
- 飯田高原診療所特別会計
増減なし 総額 6,947万6千円
- 介護保険特別会計
補正額25万5千円 総額 15億2,275万4千円

第4回九重町議会 定例会

「令和4年12月2日～16日」

第4回定例会議案一覧			
議案番号	件名	付託	結果
諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		同意
議案第70号	道路認定について	総務	可決
議案第71号	各種集会所の設置及び管理に関する条例の一部改正について	教民	可決
議案第72号	金山集会所の指定管理者の指定について	教民	可決
議案第73号	令和4年度九重町一般会計補正予算（第11号）		可決
議案第74号	令和4年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）		可決
議案第75号	令和4年度水道特別会計補正予算（第2号）		可決
議案第76号	令和4年度飯田高原診療所特別会計補正予算（第1号）		可決
議案第77号	令和4年度介護保険特別会計補正予算（第2号）		可決
議案第78号	令和4年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）		可決
追加議案			
議案第79号	職員の給与に関する条例の一部改正について	総務	可決
議案第80号	職員の定年等に関する条例等の一部改正等について	総務	可決
議案第81号	令和4年度九重町一般会計補正予算（第12号）		可決
議案第82号	令和4年度水道特別会計補正予算（第3号）		可決
議案第83号	令和4年度飯田高原診療所特別会計補正予算（第2号）		可決
議案第84号	令和4年度介護保険特別会計補正予算（第3号）		可決
議案第85号	工事請負契約の締結について		可決
議案第86号	令和4年度九重町一般会計補正予算（第13号）		可決
議員提出議案			
発議第4号	九重町議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について		可決
発議第5号	教職員が保護者や地域とつながり、地域に根ざした学校教育活動ができるための環境づくりを求める意見書について		可決

（注）全員一致の場合は、「可決」または「否決」と記しています。可否が分かれた場合は、各議員の意見等詳細を載せます。
 総務＝総務建設産業常任委員会、教民＝教育民生観光常任委員会

《定例会質疑応答》

佐藤明郎議員（議案第73号）

Q 補助（電気料金高騰緊急対策事業補助金）を受けられる対象者は誰なのか。対象者はもれなく平等に受け取れるのか。

A 町内全ての事業者が対象であり、その点は問題ない。

※支給要件あり

麻生良典議員（議案第86号）

Q プレミアム付き商品券をより多くの町民に利用してもらうための方策は何か。

A 本商品券事業は商業の活性化のために行っているが、購入利用者への利点を考え、プレミアム率、購入や使用期間、購入枚数に工夫を重ねてきた。今後も商工会や利用者の意見を把握して好評度を高めたい。



人権擁護委員（再任）
 佐藤 佳美さん
 （南山田 相狭間）

人事案件

1件

新年のごあいさつ

議長 菅原 美好



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より、九重町議会に對しまして、温かいご指導、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。三年目を迎え依然として終息の見えないコロナ禍での生活は、経済を動かす為に自粛していた旅行、行事等、動き出しましたが、感染拡大、予断を許さない状況です。九重町が抱える諸問題、少子高齢化、急激な人口減少、令和二年の豪雨災害、復旧はかなり進んでい

ますが、耕地災害の復旧は、まだ終わっておりません。今、町の財政は健全とはいえ、大幅な自主財源の増加が求められています。地域資源（地熱）を生かした開発、夢のある、日本一の町づくり、町民の理解のもと、執行部とともに進めていく時が来ています。令和五年が素晴らしい一年になりますよう、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。



☆第5回九重町議会 臨時会 議案一覧

令和4年11月22日

議案番号	件名	結果
報告第11号	専決処分の報告同承認を求めることについて	承認
議案第69号	令和4年度九重町一般会計補正予算（第10号）	可決

専決内容

専決第6号 一般会計補正予算（第9号） 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金

《臨時会質疑応答》…家庭用石油タンク設置事業補助金について

佐藤明郎議員（議案第69号）

- Q** 高齢者、障がい者が対象というが、当事者の本当の困りごとは、ポリタンクを屋内に持ち込み、器具まで運ぶ作業である。電気化も合わせた補助も考えるべきでは。予算計上20件分の根拠は。
- A** 家庭内だけでなく買いに行くのも負担であり、その部分を支援したいと考えた。当事者のお宅の中には、ポリタンクをいくつも並べて危険な実態も見受けられる。電気化という考え方もあるが、現状の暖房の主流は石油であり、即効性などから判断し、タンクとした。20件は町内の配達事業者から聞き取り計上した。

麻生良典議員（議案第69号）

- Q** 高齢者等の利便性をより高めてはどうか。スマート機能付きのオイルタンクでは給油所が常に残量を把握でき随時給油可能である。高齢者の利便性をより高めるために給油所まで拡大した取り組みは有効ではないか。
- A** 初めての取り組みであり提案通り進める。利用状況や要望を把握し、今後の取り組みの参考にしたい。

職員の定年等に関する条例等の一部改正等

地方公務員法等の一部改正に伴って、定年を引き上げ、管理監督職勤務上限年齢制及び定年前再任用短時間勤務制に係る規定が追加され、関係条例が改正されます。

定年は65歳となりますが、令和13年度までの8年間で段階的に引き上げられます。定年後に一定期間勤務を継続する職員については、定年直近の給与の70%が支給されます。同時に、九重町職員の再任用に関する条例が廃止されます。

職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に基づき、国家公務員の給与改定が行われるため条例の一部改正を行います。

人事院勧告と県人事委員会勧告とに差額が生じるため、差額分は職員手当（通勤手当）で措置され月額2千円増額されます。令和5年1月から3月までの期間です。

月例給の改定率は平均0.3%で、勤勉手当は支給月数が年間で0.1月分引上げられます。

定年延長の経過措置

R5年4月1日からR7年3月31日まで	61歳
R7年4月1日からR9年3月31日まで	62歳
R9年4月1日からR11年3月31日まで	63歳
R11年4月1日からR13年3月31日まで	64歳

定年延長について

「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」では、2012年に原則65歳まで雇用、2021年には70歳までの定年延長の努力義務化、2025年度からは65歳への定年引上げ、定年廃止、65歳までの雇用継続制度のいずれかが義務化されます。

厚生年金の支給開始年齢は、2013年から3年ごとに1歳ずつ引き上げられており、2025年に65歳となります。

アメリカやイギリス、カナダなどの諸外国は原則的に定年制を禁止（廃止）しており、定年の延長や廃止が世界の流れとなっています。

道路認定 “吉部上藪線”

本路線は吉部と上藪を結ぶ道路で、湯沢地区の生活に重要なため関係住民より町道認定を求める陳情書が提出されていました。今回、町道として認定しました。

飯田東部地区マラソン練習コースの政策道路としての総合整備計画に関する陳情書 (陳情者:湯沢区長 飯田祥治朗氏 外11名)

現地視察や関係区長さん方との意見交換を行い、現在審議中です。本会議終了後も継続して審査することになりました。



各種集会所の設置及び管理に関する条例の一部改正

本条例の別表第1の各種集会所一覧表に、12月中旬完成予定の「金山集会所」を追加し、先に解体を行った「中央五老人軽作業場」を削除するものであります。



新築された金山集会所



解体された中央五老人軽作業場跡

教職員が保護者や地域とつながり、地域に根ざした学校教育活動ができるための環境づくりを求める意見書の提出に関する請願書

子どもの教育効果をあげるために、学校が保護者や地域とつながりながら日頃の学習や学校行事を進めていくことの重要性が増している中、教職員が保護者や地域を知り、理解を得ながら進めていくことが大切である一方、大分県教育委員会は、2011年10月以降、採用後の人材育成として、対象者に対して広域的な異動を短期間で頻繁に行っています。

この人事異動ルールにより、わずか3年で教職員と子どもや保護者、地域との関係性が切れてしまうことや勤務地が頻繁に変わることによって教職員に大きな負担となること。さらに、教職員志望者が大分県の受験を敬遠する一因になっていることなどから地域に根ざした学校教育活動ができるためにはこのルールの見直しが必要であると考えます。

これらを踏まえ、本請願については、教職員が保護者や地域とつながり、地域に根ざした学校教育活動ができるための環境づくりを行う趣旨の意見書の提出を求めるものであり、理解できるため、採択とし広瀬知事、岡本教育長へ意見書を提出します。

教職員が保護者や地域とつながり、地域に根ざした学校教育活動ができるための環境づくりを求める意見書

1. 教育の継続性、効果的な教育活動、保護者や地域と学校の連携、教職員の労働安全衛生等の観点から、頻繁かつ行き過ぎた広域異動は行わないこと。
2. 新採用から短期間のうちに教員等の人事地域間異動・学校事務職員の勤務替えを行わないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月16日

大分県九重町議会

大分県知事 広瀬 勝貞 殿、大分県教育委員会教育長 岡本 天津男 殿

※提出した意見書の一部を抜粋

11/11

日田玖珠議長会議員研修会

演題；ハラスメント防止の留意点 一事例と防止に向けた方策—
 演者；松本久美子 フリーアナウンサー



演者は放送局等の勤務を経て、人権擁護委員、心理カウンセラー、生涯学習講師を始めとして数多くの団体でも活動し、平成15年には「この葉クローバー」を設立し、人権を中心にして幅広く展開しています。ご自身の体験も交えて、リアルなハラスメントの実態が紹介されました。配布されたハラスメント認識度等のチェックシートを見ながら頭を抱える議員もチラホラ。

議員のハラスメントが報道される昨今。過去の価値観を刷新し、新たな常識のもとで健全な議員活動すべきことを再認識しました。

11/17

大分県町村議会議員研修会

演題；人口減少時代における町村議会の課題と展望
 —議会の機能と政策形成能力向上に向けて—
 演者；牛山久仁彦 明治大学教授



国内の町村議会は高齢化、女性議員の少なさに伴う多様性の欠如、議員のなり手不足という大きな課題を抱えています。地方分権の時代であり、議会の政策立案能力の向上や審議充実化は一つの打開策ではないか。住民との関係の再構築がないかと力説されました。

課題の大きさから小手先ではなく、根本から時間をかけてでも解消すべきと思われます。他の議会での取り組み事例が紹介されており、一つでも取り入れ、試行錯誤を繰り返す価値はありそうです。我々は他の解消策も検討しており、包括的に進めていきたいです。

9月～11月

タブレット研修会



議会のデジタル化を第一段階目の目標としてDX特別委員会が設置され、およそ一年経過した令和4年半ばに、待望のタブレットが納入されました。

文書システムの導入も済んだ秋口から、事務局によるタブレット操作説明会が始まりました。操作に慣れている人もいれば不慣れな人もいて、大賑わいでした。タブレットを個人配布して、更に個人的にも集团的にも

研修を行いました。その後、文書システム供給会社の講習で資料閲覧や種々の画面操作を学びました。事前研修が役立ち、比較的スムーズに進みました。

昨年末の議会では、紙資料とタブレットを併用しましたが、これからです。慣れてくれば殆どの紙資料は不要になります。今年中には次のステージに向けた準備が開始できるとベストです。



10/
20,21

県外の議会による視察研修対応

①宮城県亶理地方町議会議長会（10/20）

- ・議会DX特別委員会
設置の経緯、委員構成、現状
- ・定住促進対策
経緯、空き家対策、土地バンク制度等

②鳥取県三朝町議会運営委員会（10/21）

- ・自立の町づくり
町単独存続の選択の
経緯、町民や行政の
変化と課題等
- ・議会活動の取り組み
夜間議会や出前議会
の実施状況と町民の
反響等



亶理地方議会視察



三朝町議会視察

いずれの議会も町の特性に応じて表面化する課題は若干異なるものの、基本的に同じ悩みを持っており大変有意義な意見交換ができました。

亶理地方町議会議長会は隣接する亶理町と山本町の二町で形成されており、非常に珍しい仕組みです。過去には両町の合併が協議されたようですが現在に至っています。興味深いですね。



佐世保市表敬訪問

10/
12,13

昭和27年に九重町から佐世保市への農産物の出荷をきっかけとして、平成3年に姉妹都市の締結を行い、一昨年に30周年を迎えました。コロナの影響で一年持ち越された記念式典で、市長と議長が交流を約束し昨秋に実現しました。

市からは市長、議長を始めとして多数の主要職員の同席を頂き、観光政策や交流の在り方等について熱気あふれる意見交換ができました。

議会や職員、ふるさと祭りのみならず幅広い層にわたる交流機会を設ける等工夫を凝らして、永続的で深いつながりを作っていきたいと思えます。



12/
13

部落解放同盟九重支部との対話会

—水平社100年に思いを馳せて—

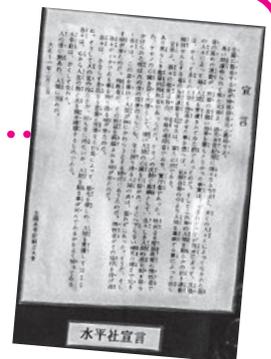
水平社は昨年、創立100周年を迎え、町内各所でいろんな行事で取り上げられ、多くの人の目に留まり心に刻まれたことと思います。対話会も水平社のことを基調にして意見交換を行いました。

去る6月には奈良県にある水平社博物館を主対象として、支部や議会が視察研修を行ったため、参加者から感想含めた報告がありました。現地に行って初めて分かったこと、心動かされることに出会ったこと等、まさに百聞は一見に如かず、であったようです。

意見交換では、支部員や議員から新たな体験談も紹介され、その内容から一歩進んだ話し合いができたように感じました。また、インターネットによる深刻な差別実態が危機的状態にあるとの話もありました。

最後に全員で水平社に強く思いを馳せるため、水平社宣言を声高らかに読み上げ、部落差別解消へのまい進と人間の尊厳を守ることを誓ったのでした。

“人の世に熱あれ、人間に光あれ”



防衛・日出生台演習場対策に関する活動



10/11 玖珠駐屯地司令表敬訪問

昨年新たに就任された服部樹彦司令を表敬訪問しました。防衛講話では、駐屯地の歴史や女性隊員が増えている現状などが紹介されました。その後、配備されている戦車を見学し、装甲車にも試乗しました。

今後も継続して玖珠駐屯地、広くは西部方面の状況を把握して、議会活動に反映するつもりです。

10/11

演習場周辺視察 —中須導水路現地確認—

県道下恵良九重線の九重玖珠両町境付近を折れ、狭いでこぼ道を目的地に向かいました。

現地には巨岩が幾つも落ちており、斜面の上部にある導水路の下は土が広い範囲で露出していました。雨、特に頻発する豪雨によって土が洗われ、導水路自体の崩落が懸念されます。何らかの対策を講じる必要性を強く感じました。



10/6 オスプレイ報道公開訓練視察

別府市の十文字原演習場で訓練が行われました。来場者の待つ中、体の奥から揺さぶられるようなあの独特の鈍い音を響かせながらオスプレイが到着しました。

訓練では、オスプレイは負傷した自衛隊員を搬送するために使われ、熊本の高遊原分屯地に向けて飛び立っていきました。県内で行う訓練で初めてオスプレイが使われました。

演習場付近ではオスプレイの安全性を懸念する人たちが抗議活動を行っていました。オスプレイを配備して以降これまでに事故はないようですが、安全性確保は必須のことです。

10/27

九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会

各県順番で担当している表記の総会が熊本で開催されました。総会後には、熊本地震を主とした災害派遣活動状況と現在のわが国を取り巻く安全保障環境について講話がありました。

「日出生台演習場の米軍使用に関する協定」の更新のため、10月28日に県庁で調印式が行われ、町長出席のもと、内容を変えず5年間延長されました。

11/6 玖珠駐屯地開設65周年記念行事

記念行事では駐屯地が一般開放され、大変多くの来場者で賑わっていました。式典、訓練展示に加えて、玖珠には西部方面戦車隊が駐屯しているため戦車の体験試乗も行われました。

戦車等の兵器が走行するのを目の当たりにすると、身の引き締まる思いでした。来場者の歓声を受けて走行



町政を質す 一般質問

9名の議員が質問

移住・定住の現状は

…………… 空き家バンク利用登録でみると増加している



野上 香代子

移住・定住について

野上 ①移住希望者の推移は②移住体験住宅の利用状況は③体験住宅利用の広報活動は④体験住宅利用での意見は⑤体験住宅利用者が定住に結び付いているか⑥定年退職者のUターンに力をいれてはどうか。

熊谷企画調整課長

- ①増加傾向である。
- ②令和3年度は感染症対策の利用自粛で0件、令和4年度は11月末までの実績で8件104日の利用である。
- ③主にホームページから、あるいは、ポータルサイト「ココクラ」を中心に行っている。
- ④アンケートを行っている。中で空き家バンク以外の物件探しが多い。移住をしたいという気持ちが強くなったと言う意見もあった。
逆に、課題としては交通の不便さや生鮮食品を売っている所が少ない等があった。
- ⑤定住者は0件である。
- ⑥年齢制限を設けておらず幅広い年齢層が支援できる。関係人口の増加を図る。

紅葉無料シャトルバスについて

野上 ①目的は②利用状況は③コミバスとの併用は。

藤原商工・企業誘致グループリーダー

- ①ハイシーズンにおける観光客の利便性向上のためである。
- ②今年度は延べ1,066人の利用であった。

梅木危機管理情報推進課長

- ③コミバスについては、町民の利便性の確保を図る目的で、観光客の利便性とは関係機関との調整や協議が難しい。

長者原周辺の駐車場について

野上 ①紅葉シーズンの路肩駐車の実況把握は。②駐車場増設の考えは。

藤原商工・企業誘致グループリーダー

- ①路肩駐車が目立つ現状把握をしている。
- ②増設の検討を行っていきたい。



園児送迎対応について

野上 ①送迎バス乗降者点呼方法は②休園者確認方法は③園児への事故防止策は。

日野子育て支援課長

- ①運行管理マニュアルを作成し乗車・降車時に点呼を行っている。
- ②安全管理マニュアルを作成し欠席者情報を、また欠席者へは、全て連絡を行っている。職員間で共有できる状況をつくっている。
- ③園児への具体的指導等はないが、園児降車後に職員、運転手のダブルチェックで対応をしている。

豪雨災害復旧について

野上 河川、道路、農地の復旧状況は。

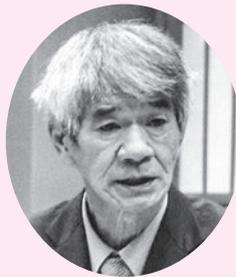
武石建設課長 河川、道路の全体として、契約率が71%、完成については51%。

農地は、契約率が43%、完成24%。

令和3年度は、河川・道路で契約率が75%、完成50%、農地は契約率が50%、完成16%。

町政を質す 一般質問

佐藤 明郎



町出資の会社は町民生活に
どう活かされているのか
(このえまち総合サービス(株))

…………… 町民サービスの向上が目的、トータル的にやる

総合サービスと住民サービス

佐藤 総合サービス設立に向け町民にどのように説明したか。

熊谷企画調整課長 行政のスリム化により町民サービス向上に向け①農業観光の対策②過疎化対策③高齢化対策の三本の柱を説明した。

佐藤 農業、特に耕作放棄地は早くから問題視され、農業委員、適正化委員が駆け回り対応しているが、現実問題、思い切った施策を打ち出さねば厳しいのが現実ではないか。

吉光農林課長 現実厳しい部分は整理し、維持できるものはしっかり維持する基本姿勢で、今後も農業委員会活動をお願いしていく。

佐藤 過疎化の影響で、町道の維持管理が限界との集落が現存することも主張してきた。検討するとの経過はどうか。

武石建設課長 先進地事例も調査しているが、基本的には地元でお願いしたい。

佐藤 高齢者支援も重要な中、行政が「今住んでいるところで、安心して暮らし続けられるまちづくり、」を打ち出したのであれば、町民に見える形で具体的に計画を示すべきだ。

熊谷企画調整課長

町民サービスの向上が目的であり、目的に向けて立てた計画を実行せねばならない。高齢者だけでなく、子育て支援、移住・人口問題も含めトータル的にやって行きたい。

集落の共同作業



小学校配置計画

①出生数の推移

年度	H29	H30	R元	R 2	R 3
人	75	57	42	43	35

②結婚祝金実績

年度	H29	H30	R元	R 2	R 3
人	13	16	15	9	13

③移住実績

若年層の移住実績は全体の3割程度

※執行部が示した数値

佐藤 少子化の厳しい現実が執行部から示された。小規模校でも子どもたちの平等な教育を受ける権利をどう守るのか。

井上教育振興課長 どこに住んでいても、子どもの数が減っても平等な教育を受ける環境づくりが大事である。

佐藤 教育委員会はこれまで少子化を見据え、「小学校は地区1校、当面6校を残す」としていたが、厳しい現実の中、あえて「6校を維持する」と方針転向した理由は。

濱田教育長 小規模校のデメリットは「このえ学園構想」で克服できている。2番目に校区住民が繋がるため、学校が大きな役割を果たしている。

佐藤 子どもの立場が重要。但し書きで「急激な児童減少の場合は検討する」としているが、この現実の中6校維持と変更した。検討する時期とは何か。

濱田教育長 現状、その子たちが就学の時期に入っていないので、その時期については教育委員会で考える。

デジタル技術を活用してどのような町の将来像を描いているか

…………… 人のつながりの維持促進
都市部同等のサービス提供



麻生 良典

デジタル技術の活用 —スマホ教室やまちづくり—

麻生 デジタル格差解消のためにやっているスマホ教室の現状は。

熊谷企画調整課長 スマホ教室は高齢者や初心者を対象に地区公民館等で実施している。昨年度は3回で60人が、今年度は2回で16人が受講した。

昨年度登録した6名のデジタル活用支援員がサポートしている。

麻生 ソフトバンクとの協定でどのようなことを行う予定なのか。

熊谷企画調整課長 町民の情報活用能力向上のため
(右に続く)

介護予防の今後は

麻生 介護予防の課題は何か。

竹尾健康福祉課長 一番の課題はフレイルへの取り組みである。フレイルは要介護状態と健康状態の中間地点で、介護予防事業をしっかりとすることで、また元気で自立した状態に戻ることが可能となる。

麻生 高齢者を対象にした“健康とくらしの調査”の結果をどう生かすのか。

竹尾健康福祉課長 フレイルや認知症対策をはじめとした介護予防事業に生かす。幸福度についても調査した。幸福度は「住民同士の支え合い」や「やってみよう、という前向きな姿勢」に比例する。結果を参考にして支え合いの地域づくりにも積極的に取り組む。

めに協定を結んだ。ソフトバンクから専門の講師やアドバイザーを招く。教室を備えた移動車を使用すれば、軒先教室も可能である。

今年度に限りNTTドコモから支援を受ける。スマホ所有者を中心に、様々な応用を学ぶ教室とする。



デジタルなんて何のその

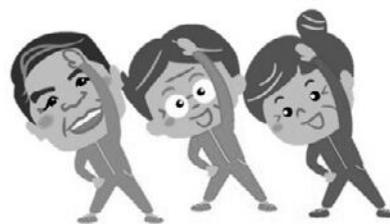
麻生 デジタル化は手段の一つである。この手段によりどんな町になることを目指しているか。役場業務では如何か。

熊谷企画調整課長 国のデジタル田園都市国家構想に沿って進める。高齢者対応、スマホ・マイナカードでの行政手続き、デジタル技術によるスマート農業・林業、就労・就農の容易化を進めている。

業務効率化により新たなサービスの提供が可能になる。人口減少や少子高齢化が進んでも、九重町に住んでいても都市住民と変わらないようなサービスが受けられることが理想の姿である。

九重町のデジタル化推進計画はない。町が主導して、5年後の町の姿を示していかなければならない。

日野町長 まちづくりの基本である人と人のつながりを円滑で強固にするために活用したい。地域愛、伝統文化等のアナログ的な側面と共存させる。



健康維持にイチニッサン

町政を質す 一般質問

佐藤
博美



“九重町今のままで残れるのか”

…………… 住民が危機感を持ち自立するのを支える…

佐藤 2040年、九重町の人口8,860人→5,822人、農業をする人1,000人→383人、建設業で働く人413人→119人、医療福祉で働く人414人→189人、5歳未満の子供275人→158人、今の九重町はこの予想以上に人口減少や、すべてに活力がなく経済も縮小している。今のまま何もしないで九重町は残れるのか…。

日野町長 人口が減少すれば当然でなくなる状況が出てくる。そのことを念頭に置きながら事業展開を考えていき、人口が減少しても存続できる町を作っていくというのが私の基本である。

まちづくりは行政が主役でやるものではない。住民の皆さんがそういう危機をお互いに共有しながら、動きだせば私達行政が自立を支えていく。“自立ができない住民は行政が自立をさせられるわけがない”と考えている。

まちづくりの方針を決めるのは行政の役割だ

佐藤 基本的には住民が主役だ。しかし、この役場の中に人材も、情報も全て集まる。ここで町の10年20年先のまちづくりの方針を決め切らず、誰が決める。人口減少の問題、減るのは仕方がない。しかし、人口減少を緩やかにし、その間に町としての生き残りを模索するための定住対策、野上中学校跡地を含めた町有地の有効利用で、九重町に住みたい人が住める施策をと議会でも言ってきたが、どうなった。

この3年間は災害復旧に全力投球を

日野町長 時間がかかっているのは事実だが定住問題については、随分前からそのことは計画をして相談もしている。近いうちに報告をしたいと思っている。また、同時に現実問題としての災害復旧に一生懸命駆けずり回っていることは理解をいただきたい。

まちづくりには自主財源の確保のための“ふるさと納税”もっと力を入れるべき

佐藤 町づくりには自主財源が必要である。九重町の

目玉である吊橋で50万人来て使える金は1億円位だが、ふるさと納税で国東市は20億円、県下5億円以上のふるさと納税は8市町あり、九重町は姫島に次いで県下で下から2番目だ。役場の職員だけの取り組みでは限界がある。事業委託や宿泊券等にも取り組みもっと努力を…。

鋭意努力していきたい

熊谷企画調整課長 業者に委託できる分については委託をし、商品を増やしてふるさと納税を増やすことに鋭意努力していきたい。

九重町活性化のため吊橋への新たな投資や道の駅の取り組みを…

佐藤 吊橋ができて16年、新たな投資をしないと観光客は減少している。九重町観光の目玉としての吊橋、新たな投資を考える時、また、九重町の拠点としての道の駅への取り組みを考えていかないと九重町は存続できない。九重町の活性化に向けた新たな投資や取り組みを今こそ考える時ではないか。

民間でできることは民間で

日野町長 大吊橋については滞在型の観光になるように周辺にお客が来ていただける様に今後施設を考えていかなければならない。

道の駅については、民間でできることは民間でやっていかないと、行政が何もかもやってしまうのはまちづくりの根幹が崩れる。

佐藤 民間でできないから九重町は縮小している。やる気を出させるのが行政の役割。この役場の中に人材も、情報も全て集まっている。ここで町の方針を出して町民をリードしていかないと九重町は消滅する。危機感をもって取り組むべきだ。

吊橋の新たな活性化施策、アスレチックパーク企業誘致等は

…………… 現在、具体的に検討中。滞在型に結び付けたい



増田 裕子

これまで質問したことの現状と方向性を確認する

①災害に強いまちづくり

増田 ハザードマップの更新や防災月間の制定、ラインの公式アカウントで情報発信などは迅速に実施されている。避難所の整備や備蓄の状況は。

梅木危機管理情報推進課長 避難所でのインターネットとテレビ視聴環境の整備、冷風機等を設置した。倉庫には、発電機3台、投光器1台、トイレ用パーソナルテント2基、毛布等70枚、簡易トイレ10枚、パック毛布20枚、おむつ64枚、生理用ナプキン60枚等、各避難所の倉庫に備えている。

増田 災害の避難所として町内宿泊施設との連携協定もできたが、利用状況をもっと周知すべき。

梅木危機管理情報推進課長 相談のみで実績はゼロ件。前向きに取り組む。



町内宿泊施設自主避難受け入れ可能施設

R2年の災害の教訓、役場の組織体制の見直しを

増田 指揮系統の確立と住民対応の改革は。

友松総務課長 現在課長会で検討中であり、来年度の組織体制については、これから町長協議していく。

増田 教育長が任期満了で12/15で退任し、来年3月まで空白と聞いた。この情勢下、危機管理上納得できないが、考えを伺う。

日野町長 確かに懸念はあるが、現場組織の混乱を避けるために職務代理を置き、4月からスタートをきれるようにする。

②夢大吊橋の活性化施策、アスレチックパーク等、企業を誘致して新たなしなかけを!

増田 町民無料化と活性化施策は。

時松副町長 恒常的に無料化は検討していない。特定の日を設定して取り組んではどうかと考えている。自然と共生型のアドベンチャー施設を具体的に調べている。吊橋だけではなく滞在型に結び付けたい。



三島スカイウォーク吊橋の横でジップラインを楽しむ



三島スカイウォークでのアドベンチャー

③コミバスの利便性向上とダイヤ改正の計画は

増田 子育て支援の一環として、交通手段にお金がかかる高校生の料金を半額にできないか。

熊谷企画調整課長 トータルに検討しないと難しい。

増田 やれない理由ではなく、やれる方法を考えてぜひ実施してほしい。今後のダイヤ改正は。

梅木危機管理情報推進課長 まずアンケートを取って、利用者への聞き取り等進めている。3月末までの計画策定に反映させ、ダイヤ改正も検討していく。

町政を質す 一般質問

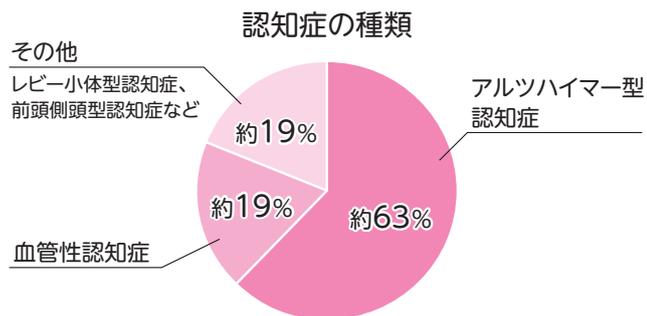
岐部
俊哉



提案 『帯状疱疹予防接種費用に対する助成を行う』

……… 国の方針を注視する

令和の時代を生きる! 第14弾「人づくり」は「町づくり」



Meguro K. et al. Arch Neurol. 2002;59:1109-1114より作図

【提案根拠】

- ①水痘・帯状疱疹ウイルスは体内に潜伏し、免疫力や体力が低下すると帯状疱疹を発症するDNA型ウイルスである。また、アルツハイマー型認知症の原因物質となるアミロイドβタンパクの脳内での蓄積を促すという信頼できる研究結果が国内外で発表されている。
- ②水痘ウイルスで発症する水疱瘡は、市町村が主体となって実施する定期接種であり、集団予防を目的とする感染症（A類疾病）に分類されている。2014年10月から定期接種で受けられるようになった。（9割以上の方が接種している）
- ③高齢化率50%超を目前に控える九重町で認知症と介護は喫緊の課題である。健康寿命No.1の町を持続的なものにするためにも町民の生活習慣を健康的に保つことに加え、病気の対症療法から健康意識の啓発と向上、さらに予防治療意識の定着に繋がる事業となると考えられる。
- ④現行任意接種である帯状疱疹ワクチンを2回接種することで90%以上の確率で発症を抑えることができるという医療データから、放置すれば長期にわたる帯状疱疹の症状から解放され、アルツハイマー型認知症のリスクも軽減するワクチン接種には大きな意義があり、政治判断の価値は十分にある。

岐部 九重町の健康寿命の県内での状況は。

竹尾健康福祉課長 最新の状況は大分県内18市町村で男女ともに2番となっている。

岐部 県内で帯状疱疹予防接種の助成を行っている自治体はあるか。

竹尾健康福祉課長 国東市が行っている（1回5,000円）。

岐部 認知症の原因の約7割を占めるアルツハイマー病の把握と支援策はあるか。

竹尾健康福祉課長 アルツハイマー病患者の把握はできていない。ただ、アルツハイマー型認知症は、国の「年代別認知症発症率データ」から割り出した認知症全体の数から推計することが可能。認知症支援は、地域包括支援センターが中心となり、相談事業やオレンジカフェ等を行っている。

岐部 帯状疱疹とアルツハイマー病の相関関係をどのように把握しているか。

竹尾健康福祉課長 アルツハイマー病発症の仕組みは未解明であるが、有力なのが「アミロイド仮説」。アミロイドβというたんぱく質が脳に蓄積、脳にシミができることを引き金に、タウたんぱく質が蓄積し脳の神経細胞が死滅、発症するというもの。この流れを帯状疱疹ウイルスが促しているのではないかとの研究があることは認識している。

岐部 アルツハイマー病についての研究（A）や新薬の開発（B）も行われている。



(A)



(B)

帯状疱疹の予防接種がアルツハイマー型認知症の抑制に結び付き助成の意義があるのではないか。

日野町長 現行では任意接種である。今後国の制度改正も注視していく中で研究する。

“夢”大吊橋を核とした観光振興について (施設のリニューアルや周辺地域の再開発をすべきではないか)

…………… 事業者や住民の協力をいただきながら考えていかなければならないと思っている。今後1年以内に一つの事業が動き出すことも検討している



岩尾 茂樹

町の活性化・“夢”大吊橋を核とした観光振興について

岩尾 施設のリニューアルや周辺地域の再開発をすべきではないか。

プロポーザル方式やPFI方式を利用し、民間企業に建設、維持管理運営、資金提供をしてもらい、町の負担を少なくする。

来年度の当初予算に調査研究費を計上できないか。

日野町長 事業者や住民の協力をいただきながら考えていかなければならないと思っている、事業者の方が潤えるような施策を一つ一つ採っていく、今後1年以内に一つの事業が動き出すことも検討している。



リニューアルが望まれる天空館

町の核、中心地づくりについて

岩尾 日常の買い物等ができ、農産物や加工品等の直売や観光客の受け入れ拠点となれるような場所の確保が必要ではないか。

吉光農林課長 直売に関しては、一般社団法人くすこのえ産直ネットが今年の2月に設立され、九重町では(一社)くすこのえ産直ネットとふるさと館の2組織で産直事業を実施している。支援していきたいと考えている。

岩尾 単独の自治体として存続するのであれば、大型の観光バスで来る観光客に対応でき、また町民のお金が町内で使用されるような場所も必要ではないか。

日野町長 そういうことを行政がやるのがいいのか、民間がやるのがいいのか、行政はやろうとする人を支えるのが一番大事だと考えている。

今後そうしたことを議論しながら、町のあるべき姿を検討していきたい。

小中学校の存続・児童、生徒の確保について

岩尾 少子化への対応策として給食費の無償化を実施すべきではないか。

井上教育振興課長 財源の問題があり、現在検討していない。

岩尾 高校生までの医療費の無償化はできないか。

佐藤住民課長 やはり財源の問題があり、慎重な検討が必要と考える。

岩尾 子どもを大切にする町として、給食に安心・安全な食材、有機米、有機栽培の野菜等の使用を進めるべきではないか。

井上教育振興課長 供給量や価格等の課題があり、地元産の使用を進めながら、安心・安全な給食の提供に努めたい。

岩尾 町内に若い世代、子育て世代が住める住宅を確保すべきではないか。

熊谷企画調整課長 非常に大きな課題であり、最も力を入れて取り組んでいかなければならないと考えている。家賃助成、公営住宅整備、子育てリフォーム等の住宅施策を進めている。

町政を質す 一般質問

大津留
敏加



町直営のこども園民営化について 進み具合はどうなっているか

…………… 町内外の社会福祉法人などと協議している

職員定数管理134名の目標は

大津留 職員定数管理134名はこども園の民営化が含まれている。進み具合はどうなっているか。

日野子育て支援課長 職員定数管理134名は、こども園の民営化を前提にした定数である。受け皿となる法人は社会福祉法人、学校法人であり、民営化に向け町内外の社会福祉法人と協議を重ねる中、専門職の確保、特に保育教諭の確保が非常に難しい。今後の町の園児数、出生児童数の見込み等も併せて、協議している。



みつばこども園



大吊橋

トレッキングコースの考えは

大津留 トレッキングコースとは、高原や山の中を歩くこと。町の施設九重“夢”大吊橋からタデワラ湿原（阿蘇くじゅう国立公園）のある長者原を結ぶトレッキングコースの考えはないか。

時松副町長 今年、大分県のウォーキング協会主催で飯田公民館から九重“夢”大吊橋を渡って長者原までのコースを設定されている。自然との共生を重視したまちづくりを協議していく。

町道の維持、管理について

大津留 町から地元行政区にお願いしている維持、管理は町道沿いの草刈り、側溝の清掃、冬場の路面積雪時の塩カリ散布である。小規模行政区は高齢化や人口減少等により、法面の急傾斜地の萱（かや）や支障木の伐採に対応が厳しい。町の支援は。

武石建設課長 萱や支障木の伐採について、萱等の草刈りは地元行政区で、支障木の伐採は所有者にお願いをしている。災害時の倒木は町で対応をすることもある。



町道 法面の急傾斜地

地域資源を生かして 日本一の町づくり!

…………… 可能ならチャレンジする



菅原
美好

菅原 経済産業省、自然エネルギー庁が2050年カーボンニュートラル、温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指してエネルギー政策を進めている中、環境省が地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を支給し、支援する制度を利用しないかということ。この制度は民間企業ではなく地方公共団体で、令和3年からはじまり、来年度は400億円の予算規模。交付対象は財政力指数0.51以下で、九重町は0.34だから該当する。基準は事業費の3/4を国が責任を持って補償する。導入すれば、発電所建設などできる。1,000kwの発電で約3億円程度の売電収入が、事業費の1/4は自治体を持たなければならないリスクもある。役場全体の一年間の電気代は、7,300万円かかっている。充当できる。給食費の無償化や、子どもの出産祝金、結婚祝金の増額など可能。私個人的に地熱に関する技術者等の交流がある。執行部の課長や議員全員での勉強会を企画したいと思う。ぜひ協力を。

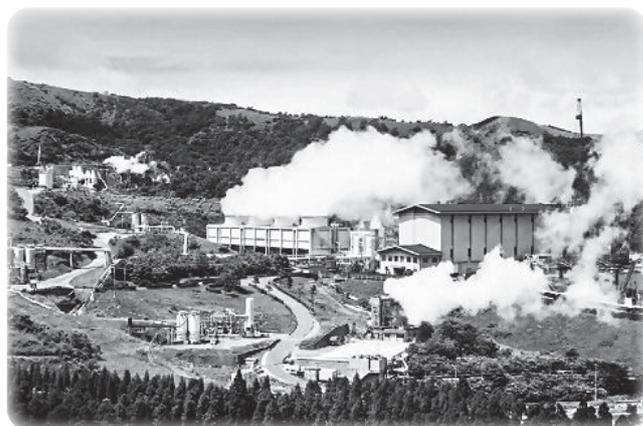
夢のある九重町をつくるためにも、執行部の思い切った決断を。

日野町長 自主財源の確保の中で、それを実現するためにも、汗をかくことも大事だと思う。勉強会でしっかり協議をもって、それが可能であれば、チャレンジしていく。

児童・生徒数

学校名	人数
東飯田小学校	103名
野上小学校	103名
野矢小学校	27名
飯田小学校	57名
淮園小学校	27名
南山田小学校	75名
このえ緑陽中学校	219名

令和4年10月現在



八丁原発電所

菅原 今年4月に環境省の大岡敏孝副大臣が、地元関係者と環境政策や脱炭素に向けた国内の実情、財政支援等で意見交換したと聞かすが、どのような内容だったか。

日野町長 本町の地熱や森林などの豊富な地域資源を生かして、民間企業と連携しながら、再生エネルギーの利活用の話し合いがされた。

令和3年度 電気料（町有施設）

主な施設

施設名	料金
庁舎	12,481,164円
こども園	3,865,921円
大吊橋	4,578,536円
小学校	6,925,760円
中学校	5,360,194円
各公民館	3,421,760円
文化センター	7,014,713円
給食センター	5,406,903円
水道施設12カ所	4,680,596円

全体 73,727,643円

あたしのひとこと

種を継ぐ、食の自給を！

野上 田代

日野 克哉さん



今年の秋、NPO法人のや里山舎を立ち上げました。野矢、という素晴らしい自然や文化、生きものが残る土地を、農業や食を通じて、都会の人や旅人に楽しんでもらいながら、何か里山の資源を有効活用できたら、と思っています。

野矢では、3年前、空き家だった築明治の古民家を改修し、一組限定のゲストハウスも運営しています。コロナが落ち着き、今年の夏ぐらいいから海外のお客様も滞在してくれるようになりました。

家業は、農家として種を継

ぐ、農薬や肥料に頼らない自然農法で米、豆、雑穀や野菜を栽培し、できるだけ自給しながら子ども2人と4人で暮らしています。野矢には、昔から種を保存しながら自給する先輩たちや、地域の食育活動、特急列車が離合する野矢駅、紫陽花通り、落人伝説が残る平家山など、魅力的な人や場所が盛りだくさん。その多くが、都会の人にとって魅力的なものです。

また、世界的な食糧危機が懸念される中、食の自給力が大事ななあ、と感じます。自分で種をまき、食べものを作る喜びを子どもから大人まで多くのの人に知って欲しい。そんな場の提供にも、NPO法人で多くの方と楽しみなが実践できれば、と思っています。



十月 海外や町外の宿泊者や家族との餅つき

故郷のありがたみを次世代へ

飯田 筈の口

吉田 雄一さん



阿蘇くじゅう国立公園を有する九重町。飯田高原にて炭酸温泉施設を営んでいます。昨年の秋に東京より帰省して家業を承継している最中です。

そんな折に改めてくじゅう連山に登山し標高1700mの山々から望む国立公園の絶景に感嘆しました。また、九重

町民にはくじゅう森林公園スキー場が入場無料と嬉しい噂を聞きつけてスキーを昨年より始めました。楽しみ方は人それぞれですが数々の温泉で心と身体を癒し、そして登山対象の雄大

なる山々に気の赴くままに入る。やまなみハイウェイをウォーキングしたりロードバイクでサイクリングしたりと他では味わえない楽しみが盛り沢山。仕事をする事も大切ですが、改めて40歳を超えて小さな喜びやワクワクを見つける事出来る飯田高原や九重町が大好きな地元だなど、再確認している最中でもあります。

春夏秋冬それぞれの季節の中で自らの人生の豊かさを教えてくれる自然と共に生きる事は、世界広しと言えど、稀有な体験だと地元地域に感謝の気持ちでいっばいです。次の世代にこの素晴らしい地元を確かに渡せる様に、日々学び日々を楽しみながら魅力溢れる地元の養分に自分もなれたらいいなと思っています。



炭酸泉の施設



第16回

南山田



南山田げんき祭り
開幕を飾る准園小げんき太鼓

地区リレー

東飯田



つーだら・だった祭り
盆踊りの様子



議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。
【議会事務局：76-3814】

令和5年1月17日
発行／九重町議会 編集／議会広報特別委員会
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メール(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

編集後記

議員任期が二月で終わろうとしていきます。

四年間を振り返ると、三年前にコロナウイルス感染症が日本で確認され、それからというものコロナウイルスに惑わされた歳月だったなあと感じています。そして、忘れもしない令和二年七月六日から八日にかけて町を襲った豪雨災害、甚大な被害をもたらしました。その後、令和三年(豪雨)、令和四年(台風)と災害は続きました。

災害や感染症、生活環境が目まぐるしく変わる中でも九重町は、住民の支え合い、助け合い、人の繋がりは強固な町です。何があっても大丈夫。助けられる人がいるから、そんな町であり続けてほしいと思っています。

議会広報委員長として最後の議会だよりになりました。多くの方に読んでいただけたかな。不安は残りますが、最後までまっとう出来ひと安心。皆さん、ありがとうございます。

- 野上香代子
- 広報委員長 野上香代子
- 副委員長 土井眞一郎
- 委員 佐藤博美
- 委員 大津留敏加
- 委員 麻生良典
- 委員 岐部俊哉